

第 104 代 カンタベリー大主教
ローワン・ダグラス・ウィリアムズ師 メッセージ

桃山学院創立 125 周年・大学開学 50 周年記念感謝礼拝

2009年9月25日(金)

桃山学院大学 聖アンデレ広場

優れた学校あるいは大学は、いくつかの特徴を備えています。その一つは、優れた学校は単に教師が自分の頭の中にある知識・情報を他人の頭の中に伝える場ではなく、学生にものごとを理解したいという気持ちを起こさせる場であるということです。時には学生が「私は真理を探求しているうちに、先生とは違う考えに到達しました」と言うことがあっても、優秀な教師はそのような発言を歓迎します。そのときこそ、学生が真理を探求している、すなわち、ただ教師という一人の人間に忠実であるのではなく、真理に忠実であろうとしていることを教師は知るのである。そして真理への探求心は決して尽きることなく、優秀な学生の人生を通して常に新しく沸いてくるものです。優秀な学生とは「いま、これで私は学業を修めた。これからは思い通りに人生を過ごせる」と言うような学生ではなく、「自分がどのように成長していくかということ学んだ」と言う学生です。

このような理念は、つい先ほどの聖書朗読(コリントの信徒への手紙 3:5~9)の中にあつたように、キリスト教の精神に基づくものであることがわかります。聖パウロは、はじめにコリントの信徒が成長しないし、成長しようとしもないことを嘆いています。彼らは自分たちの教師に忠実であるとするだけで、イエス・キリストの中にある真理に忠実であるとは欲しないのです。「私があなた方に望むのは、私に対して忠実であつて欲しいということではありません。イエス・キリストの中にある真理に対して忠実であつて欲しいのです」と言ったパウロは優れた教師だと言えます。彼は自分の弟子たちがいつまでも子供でとどまるのではなく、成長してくれることを願っています。彼らに自由になって欲しいと願うのです。ここで、桃山学院の持つ理念の中で重要だと私が理解している二つの言葉が関わってきます。すなわち、聖書の中に出てくる「自由」と「愛」です。

キリスト教の教師は、人々が自由になって欲しいと望んでいます。キリスト教の教師は人々に真理を求めて欲しいと願っています。したがって、キリスト教系の学校、大学は常に自由と愛の場でなければなりません。そこは学生たちが自分達の前途に終わることのない真理探求の旅が待ちうけていることを学ぶ場所です。キリスト教徒は、真理は究極的にはイエス・キリストの顔を持っていることを確信しています。だから、学びの旅は様々な事実を身につけるのではなく、ある一つの関係性に至ることです。それは愛と真理への探求心との関係性です。なぜならば、真理そのものは愛と同じものであるとみることが出来るからです。今日、私たちはこの大学の歴史が象徴している愛と自由への旅に対し感謝の気持ちを捧げます。そして、前途に控える旅路に神の恵みがありますように。また、それぞれの学生の真理への旅が、自由と愛の旅でもあるようお祈りいたします。

父と子と聖霊の御名によって。アーメン。